

◆ PROGRAM ◆

研究とライフイベントの両立を支援する制度が始まりました。

■ 育児休業等からの研究活動復帰支援制度

研究者がライフイベント（出産・育児・介護）による研究活動の一時中断から円滑に研究活動へ復帰するための支援制度です。

- [対象]
・ ライフイベントによる研究活動の一時中断から復帰後一年以内の女性研究者
・ 配偶者が研究者で、ライフイベントによる研究活動の一時中断から復帰後一年以内の男性研究者

- [支援内容]
・ 論文投稿にかかる投稿料
・ 学会参加費、登録料等（旅費、年会費、振込手数料は除く）
・ その他研究活動にかかる経費で女性研究者支援室長が復帰支援の対象項目として認めたもの

※1名につき、
100,000円を上限。

■ 病児保育施設等利用助成制度

病気療養中又は病気回復期にあたる子を保育施設に預ける場合の利用料に対する費用を援助するための助成制度です。

※当制度の詳細については、男女共同参画推進室にお問合せください。

◆ REPORT ◆

各学部でキャリアデザインセミナーを開催しました。

各学部との共催で、女性研究者の裾野拡大や男女共同参画に関するセミナーを開催しました。講師として現在様々な分野で活躍する女性研究者の方々をお招きし、自身のご経験に基づいた貴重なお話をいただきました。セミナーには、本学学生や教職員等多くの方々にご参加いただきました。



参加した学生によるセミナーレポートを、女性研究者支援室ホームページのトピックスで紹介していますので、是非ご覧ください。

発行

山口大学女性研究者支援室

協力：山口大学男女共同参画推進室

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」

〒753-8511 山口市吉田 1677-1 (吉田キャンパス) 共通教育棟 2F
TEL : 083-933-5997 内線5997
URL : <http://wr-shien.kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp>
e-mail : wr-shien@yamaguchi-u.ac.jp

NEWS LETTER

February
2017

モバイル版は
こちらから▶



山口大学 女性研究者 検索

vol.05

INDEX

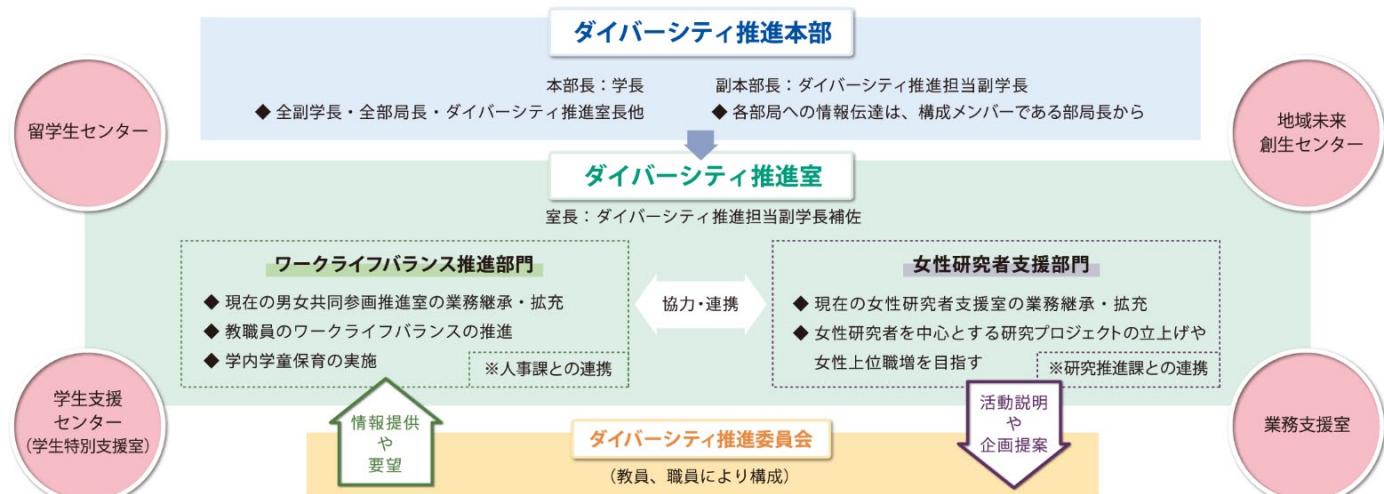
- 「ダイバーシティ推進室」開設について 01
- レポート 「総括シンポジウム」を開催 02
- 男女共同参画・女性研究者支援に関する調査結果報告 03
- お知らせ、レポート 04

NEWS LETTER – Yamaguchi University Support Office for Female Researchers

平成29年度から 「ダイバーシティ推進室」として 支援事業を行います。

本学の女性研究者研究活動支援事業は、平成26年度から「女性研究者支援推進本部」の方針のもと、女性研究者支援室が男女共同参画推進室や各部局と連携し、全学的に展開して参りました。事業推進にあたり、教職員はじめ本学関係者の皆様のご理解ご協力、誠にありがとうございました。

平成29年度からは、「ダイバーシティ・キャンパス」の創造を目指し、本学のさらなる多様性をはぐくむため、体制を再整備し、「ダイバーシティ推進本部（本部長：学長）」のもと「ダイバーシティ推進室」として、ワーク・ライフ・バランスの推進とともに女性研究者の支援を行います。



女性研究者支援事業は、「ダイバーシティ推進室」の「女性研究者支援部門」において研究補助員制度をはじめとする施策や活動を引き続き推進していく予定です。これからも、本学の活動におきまして、皆様のご協力をお願いいたします。

「女性研究者研究活動支援事業総括シンポジウム」を開催しました。

12月20日、女性研究者研究活動支援事業の3年間の活動を総括し成果を報告する「女性研究者研究活動支援事業総括シンポジウム－研究活動支援によるダイバーシティ・キャンパスの推進－」を開催しました。
当シンポジウムについては、次ページで報告しています。



「女性研究者研究活動支援事業総括シンポジウム」を開催

12月20日、「女性研究者研究活動支援事業総括シンポジウム

－研究活動支援によるダイバーシティ・キャンパスの推進－」を開催しました。

当日は、本学教職員、学生、一般の方々など約100名が参加しました。



岡正朗学長の開会挨拶に続き、来賓挨拶として唐沢裕之氏（文部科学省学術政策局人材政策課人材政策推進室長）より、政府による人材育成の計画や女性の活躍促進に関する動向についてご説明いただきました。



▲相田 美砂子氏
(広島大学理事・副学長)



▲山崎 鈴子
(女性研究者支援室長)

基調講演では、相田美砂子氏（広島大学理事・副学長）により、「社会における大学の役割－大学改革構想の一環としての女性研究者の活躍促進－」をタイトルに、大学で男女共同参画を進めることの意義や広島大学における教員をとりまく現状や人材育成計画について、調査結果や実例を交えて分かりやすく説明いただきました。

本学における当事業の全体報告として、山崎鈴子女性研究者支援室長が、女性研究者数や研究活動支援などの当初目標に対する状況や成果、また、全学的な意識改革や研究と生活の両立支援のための

施策や活動実績について報告しました。主な成果として、目標であった「理系4学部（理・工・農・共同獣医）の女性教員比率の増加（H26年度6.9%→H28年度8.8%）」、「全ての理系学科に女性教員が所属すること」の達成があげられました。

事例報告として、まず、研究補助員制度の利用教員である共同獣医学部の高野愛准教授が、当制度をはじめとする本学の支援状況について発表を行いました。続いて、研究補助員として支援業務に携わっている下耕晴菜さん（大学院創成科学研究院科1年）が、実際の業務内容や業務を通じて感じた研究職の印象などについて報告しました。最後に、本学の「山口学研究プロジェクト」に採択されている教育学部の楮原京子講師（地理学）が、研究活動リーダーとして学内外の関係者と連携し活動する様子の説明や本学URAによる研究活動の連携構築支援について報告しました。



▲高野 愛
(共同獣医学部 准教授)

▲下耕 晴菜
(大学院創成科学研究院科1年)

▲楮原 京子
(教育学部 講師)



事例報告の終了後、科学技術振興機構プログラムオフィサーの山村康子氏より、本事業の講評と今後の本学の活動における激励のお言葉をいただきました。閉会時は、堀憲次理事・副学長（学術研究担当）が挨拶を行い、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。

本事業は今年度で終了しますが、来年度から新体制「ダイバーシティ推進室」により引き続き女性研究者支援事業を行っていく予定です。

男女共同参画・女性研究者支援に関する調査結果報告

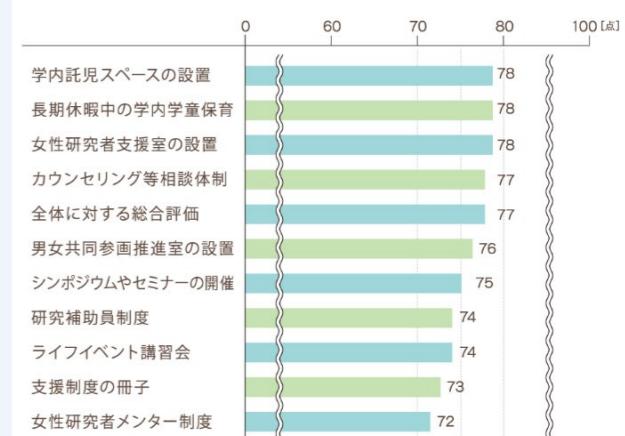
山口大学における仕事とライフィベント（子育て・介護）の両立に関する環境整備に対する認知や評価の状況および男女共同参画や女性研究者支援に関する研究者の意識や行動の変化について明らかにし、各種施策の効果や課題解決に向けた今後の取組みを検討するため、2016年7月～8月にかけて、「男女共同参画・女性研究者支援に関するアンケート調査」を実施しました。ご協力をいただきました教職員の皆さま、ありがとうございました。

調査対象者は山口大学の研究者1,017人で、調査方法は平成28年度ダイバーシティ推進FDセミナーでの会場調査法および学内便送付法を用いました。調査の結果、445人（回答率43.8%）からの回答がありました。以下、主な結果を報告します。

取組みの評価度について、平均点は、100点満点中72点～78点に分布しており、全体的に一定の評価が得られていることがわかりました（図1）。なお、評価度について、性別による大きな差異はみられませんでした。

改善度が高い取組みは、「支援制度の冊子」、「男女共同参画推進室の設置」、「女性研究者メンター制度」、「研究補助員制度」でした。これらの取組みは、重要な取組みであると認識される一方、評価度が低い状況にあり、重点的に内容の見直しを図る必要があることが分かりました。

図1 取組みの評価度



男女共同参画や女性研究者支援の推進については、賛成意向のある研究者は全体の90%以上と非常に高い水準にありました。一方、女性研究者支援室の開設以降、山口大学全体の変化を感じる研究者は20%程度であり、賛成意向が高い割には変化を感じる研究者が少ない状況でした。

男女共同参画や女性研究者支援のための取組みは、研究者から十分認知されているとはいえない状況でした。また、一定の評価が得られているとはいえない状況でした。このような状況下において、取組みに対する山口大学全体の意識や環境の変化を感じる研究者が少ないと示します。

また、性別でみると、女性教職員の活躍しやすさについては、男性よりも女性のほうがポジティブな変化を感じる人の割合が高いことから、男性研究者が思う以上に、女性研究者にとって効果が表れていることがわかりました（図2）。それ以外の意識や環境の変化については、女性よりも男性のほうが変化を感じる人の割合が高いことから、女性研究者が思う以上に男性研究者が変化を感じていることがわかりました。自由記述では多くの意見が寄せられました。仕事とライフィベント（子育て・介護）の両立に関する環境整備の取組みについては、「取組みの継続や推進を求める意見」「キャンパス間の差」「取組みの対象者についての意見」「取組みの内容についての要望」「保育支援の充実を求める意見」「職場内の意識についての意見」「取組みへの疑問」に関する声が多くありました。男女共同参画や女性研究者支援に関する研究者の意識や行動の変化については、「肯定的な意識の変化」に関する声が最も多く、その他には「否定的な意識の変化」「肯定的な行動の変化」「疑問や要望」に関する声もありました。

これらの意見は、山口大学の男女共同参画・女性研究者支援に係る施策に活用していきます。

図2 男女別にみた山口大学全体の意識や環境の変化

